

大竹市へ新しい風を 福田市政始動！

「ひと」「暮らし」「経済」が 支えあろう3つの好循環なまちづくり

去る6月14日に執行されました市長選挙におきまして、市民の皆様からご信託いただき、第6代大竹市長として重責を担うこととなりました。行政の世界に身を置くのは、私にとって初めての経験であり、身の引き締まる思いです。山積する市政課題に対し、誠心誠意取り組みまいります。

さて、私は大竹市に住んで22年になります。もともとは四国の徳島県の出身で、大学進学を機に故郷を離れ、東京都へ出ました。

その後は就職に伴う転勤により、国内のさまざまな場所で生活し、海外での駐在経験もございます。こうした多様な地域での暮らしやビジネスの経験を通じ、常に「外部からの視点」を忘れずに物事を俯瞰して考える姿勢を培ってまいりました。この経験が、これから大竹市の発展に新しい風を吹き込む一助となればと考えております。

大竹市は「住みよいまち」

私が思う大竹市の魅力は、人々が温かく、まちも非常に多面的で調和

を進めていくことを基本とした上で、市政運営の指針として、「好循環で切り拓く大竹の未来」を掲げ、「ひと・暮らし・経済の3つの好循環」を推進し、外からも人を呼び込むことのできる魅力にあふれるまちを目指します。

はじめに「ひと」の面では、人をつなぎ、世代をつなぐ好循環なまちづくりを目指します。子どもから高齢者までをつなぐ仕組みづくりや、地域で支える子育て・教育・文化・スポーツの推進に取り組みます。若者・女性・シニアにとって魅力あるまちづくりを推進し、子どもたちの未来と笑顔のために全力を尽くします。

次に「暮らし」の面では、暮らしを守り、安心が広がる好循環なまちづくりを目指します。医療・介護・福祉の充実を図るとともに、防災・防犯に強いまちづくりを推進します。また、公共交通の整備や買い物難民対策、道路・上下水道などの公共インフラ老朽化対策を計画的に進め、にぎわいと安心のある住みよい環境を守ります。

最後に「経済」の面では、働く力と経済を育み、未来へ続く、好循環なまちづくりを目指します。昨今、世界情勢や社会環境の変化に伴い地域経済が不安定化する中でも、今ある雇用を守るため、地域企業の支援

がとれている点にあります。

大竹市は、県内の他市と比べてもコンパクトな市域ですが、高速道路のインターチェンジ、JR駅や港もあり、さらには空港も近く、交通の利便性が極めて高いまちです。

また、大手企業の工場や関係会社など、経済を支える「働く場」が確固として存在する大きな強みがあり、大規模小売店や医療施設など生活に必要な基盤が整っている上に、都市部から近い場所に海や山などの豊かな自然が広がっており、非常にバランスの取れた住環境です。多くの地域を渡り歩いてきた私から見ても、大竹市は「大変住みよいまちである」と自信を持って言えます。

外からも人を
呼び込むことのできる
魅力にあふれるまちへ

そのような大竹市のまちづくりに
おいて、私は、入山前市長が築き上げた国・県との信頼関係を継続するとともに、財政健全化の取組を継承していきます。将来世代の負担軽減を視野に入れた持続可能な財政運営

を強化します。また、観光といった新たな産業の創出にも目を向け、国・県・関係団体との連携を深めることで、必要な支援を確実に獲得し、安定した財源と活力ある地域経済を確立します。

大竹市の良さを 最大限に伸ばしたい

これらの3つの好循環の実現のための私の行政運営に係る政治姿勢としましては、私のビジネスの世界で培った判断力と、国内外の都市で変化を体感してきた経験値を市政に活かして、先人の皆様が築き上げてきた大竹市の良さを最大限に伸ばしたいと考えています。

また、まちづくりの主役である市民の皆様との対話を重んじる姿勢こそが、揺るぎない信頼を築き、大竹市の未来を切り拓く原動力になると確信しております。まずは、市民の皆様の声をしっかり聴き、その想いをまちづくりの羅針盤として施策に反映させてまいります。

そして、市民の皆様、議会の皆様、市職員と手を携え、「ひと」「暮らし」「経済」が支えあろう3つの好循環なまちづくりに、共に取り組んでまいりたいと考えておりますので、より一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

意見箱を開設 ～私に市民の皆様のお届けください～

市民の皆様的身近な課題に、誠心誠意、真摯に向き合い、寄り添う行政を展開します。

皆様の声を市ホームページ、市公式 LINE または市役所・各支所・総合市民会館・栄公民館に設置の意見箱を利用してお届けください。

お寄せいただいた皆様の声は、私が直接読ませていただきます。



市ホームページ



市公式LINE



問い合わせ 企画財政課 ☎ 59-2124

第6代大竹市長 福田 弘美